HUMAN CLOSE UP ヒューマンクローズアップ

# 奥野史子さん

Fumiko Okuno

## 小さなつまずきを積み重ねることで新しい知恵と工夫が生まれる

私は4歳で水泳を始め、6歳のときにシンクロと出会いました。小学生の頃は、学校が終われば、すぐにプールに行って練習。放課後に友だちと遊ぶ時間なんてほとんどありませんでした。同じ世代の友だちと話が合わずに、悪口を言われたり、意地悪されたりすることも……。でも、「私にはやりたいことがある。その目標のために頑張っているんだ」と考えていたから、悪口なんか少しも気になりませんでしたね。人間って個性も能力もみんな違うはず。誰かに合わせることだけではなく、自分というものを持つことも大切だと思っています。

シンクロの練習は、小さな、つまずき、の繰り返しなんです。練習の間、ずっと調子がいいことなんてありません。失敗をたくさん経験することでさまざまな工夫を積み重ね、それを自分の中で消化していくことが大切。そんなに難しいことではなく、一生懸命になれるもの、夢中になれるものでさえあれば、次のステップにつながる知恵や工夫が自然に生まれてくる。「もっと上手になりたい」という意欲もわいてくると思います。厳しい練習をずっと続けてこられたのも、やっぱり私自身、シンクロが好きだったからでしょうね。

## 京都で培われた文化、芸術“ほんもの”の魅力を経験

私の両親は、私のことをとても熱心に応援してくれましたが、シンクロについてあれこれと口を出すことはしませんでした。大会の成績が良くても悪くても、「頑張ったね」と言ってくれる。もちろん、コミュニケーションは大切だと思いますが、子どもにとって「これ以上は干渉してほしくない」というラインがあるんです。私自身、母親となって実感していますが、親というのは子どものことは何でも知りたいし、口を出したい。でも時には、子どもの身になって、そっと見守ってあげることも必要ではないでしょうか。

私は、自分の子どもたちには、できる限りいろいろな選択肢を用意したいと思っています。子どもは何かを教えられるより、自分の目で見たり、匂いをかいだり、触ったり、五感を使って身体全体で覚えていくことが多いですね。京都には、スポーツはもちろん、文化、芸術など、たくさんの“ほんもの”が身近にあるので、いろいろな場所でいろいろなことが経験できます。育児にはとてもいい環境だと思います。「子どもはこうあるべき」という大人の理論で、子どもに対するバリアをつくらないようにしています。

## 大人が自らの行動を見直し子どもたちの身近なお手本となる

子どもは両親のことをすごくよく見ているものです。子どもの前で誰かの悪口を言ったり、乱暴な言葉をつかうと、子どもだって同じように、それでいいんだとまねをしてしまいます。家庭教育では、まず私たち自身の行動を見直して、子どもたちに「何が正しいのか」を伝える。身近なお手本にならなければいけないと思いますね。

学校,家庭,地域が一体となって子育てを

私が顧問をさせていただいている“人づくり21世紀委員会”が中心となって、「子どもを共に育む京都市民憲章」が制定されました。京都の真んん中で生まれ育った私にとって、小学校の行き帰りには、知り合いのおじさんやおばさんがいて、「おはよう」「おかえり」というあいさつを交わすのが当たり前でした。学校や家庭だけでなく、地域のみなさんが一体となって、子どもたちに関心をもつという意識が大切ではないでしょうか。私は、たとえ自分の子どもでなくても、悪いこと、いけないことをしていれば注意します。子どもたちのために何ができるか、どんな視線が必要なのかをあらためて考えていただきたいですね。

プロフィール ● 1972年,京都市出身。市立元龍池小・城巽中卒業。1992年,同志社大学在学中にバルセロナ・オリンピックに出場し、シンクロナイズドスイミングのソロとデュエットで銅メダル,翌年の世界選手権で日本人初の銀メダルを獲得。1995年,現役を引退したあとは,スポーツコメンテーターとしてテレビやラジオで活躍すると同時に,同志社大学大学院総合政策科学研究学科修士課程で学んで自身を磨く。2002年,陸上100mの日本代表選手・朝原宣治氏と結婚。2人の子どもの母親として,多忙な日々を過ごしている。1998年2月の人づくり21世紀委員会設立当初から顧問を務める。

# 生涯学習コーディネーター・子育てサポーター

## 地域のつながりを創る市民ボランティア

学校において,地域での学びを支え,子どもを健やかに育む環境づくりを推進するため,養成講座を修了した500名を超える市民の方々が「生涯学習コーディネーター」や「子育てサポーター」として活躍されています。

生涯学習コーディネーターは,学校ふれあいサロンの活用やふれあい土曜塾の実施,安全なまちづくりに向けたワークショップなど,地域に根ざした生涯学習の推進役として大いに貢献されています。

子育てサポーターは,保護者同士がお互いの子育ての悩みなどを語り合う「子育て語り合いサロン」や,親と子がほっとできる時間を過ごして親子の絆を再確認する「親と子のほっとタイム」の企画・運営など,核家族化等の社会の変化の中で子育てに不安を抱えている親への助言や,地域の子育てネットワークづくりを支援されています。「あしたのために」の取材などにもご協力いただいています。

## 山谷総理補佐官も絶賛 教育再生会議メンバー, 京都市を視察

12月16日に,山谷えり子総理補佐官や教育再生会議委員が京都市を訪問。同会議委員でもある門川大作教育長の案内で,本市の先進的な取組である教師塾,カリキュラム開発支援センター,堀川高校,みやこ子ども土曜塾,教育相談総合センターを視察。さらに,今年度の「生涯学習コーディネーター」と「子育てサポーター」の養成講座の会場も訪れ,114名の受講者がグループに分かれて意見を交わす模様を視察されました。山谷補佐官は,多くの市民が集って地域づくりに向けて活発な意見交換がなされていることに絶賛の声を上げられ,人づくりの伝統を支えるエネルギーに感動されていました。

# 京都「おやじの会」連絡会

家庭や地域ぐるみで「早寝・早起き・朝ごはん」

## 「おはよう・おやすみ・いただきます」

子どもが見てるぞ!

梅津小での「おやじの会」による握り飯「朝ごはん」づくり

**「わが子の父親から地域のおやじへ」を合言葉に活動する京都「おやじの会」連絡会。**

**今年度は,家庭での生活習慣を見直す「早寝・早起き・朝ごはん」を活動の一つと位置づけ,「おはよう・おやすみ・いただきます」運動に取り組んでいます。**

**今,「早寝・早起き・朝ごはん」が当たり前でなくなってきています。子どもたちが望ましい生活習慣を取り戻すためには,大人が率先して,家庭や地域で取り組むことが必要です。**

**京都「おやじの会」連絡会が,設立記念日にあたる10月3日「父さんの日」の前後に「早寝・早起き・朝ごはん」に関係した活動を呼びかけたところ,多くの「おやじの会」がこれに応え,地域ぐるみで多彩な活動を行いました。**

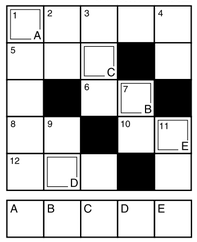
## シンボルマークも決定!

**また,この活動のシンボルマークのデザインを募集したところ,全国から53点の応募があり,その中から新潟県燕市の信貴美和さんによる作品がシンボルマークに決定しました。今後このマークを活用し,様々な場面でアピールを行う予定です。**

家庭や地域で大人が率先して早寝・早起き・朝ごはんを促すことで,子どもたちに笑顔が生まれることをイメージ

# 第45回 クロスワードパズル

パズル制作／角田美里



**ヨコのカギ**

⑩山梨○○明の美しい都が京都です
⑫平安京のメインストリートが○○○大路です

**タテのカギ**

①京言葉で歓迎をこめて、「いらっしゃいませ」
②刀剣の柄と刀身の境目に挟むものも、帽子のひさしもついいます
③干芸品も出荷時に厳しく商品のチェック、○○○が行われています
④世界無形文化遺産の○○狂言、平安神宮で開かれるのは「京都新○○」
⑦観光○○やタクシーで回るも良いけれど、じっくり歩いてみたい京都の散歩道の数々です
⑨ちょっと気取っている様子のこと。「○○なセリフ」なんていいますね
⑪京野菜の王に○○は炊き合わせの定番ですね
①京土産の代表の一つがこれ。「香の物」とも呼ばれます
⑤ことわざで、「ぶた」に真珠、「猫」に○○○といいます
⑥塩と酢で締めて押し寿司にする魚です
⑧京の色彩感覚が生んだ陶器で、京○○清水○○と呼ばれます

**応募方法** ハガキにクイズの答え(ABCDE)・住所・氏名・電話番号を明記の上
〒604-8571〈住所不要〉
京都市教育委員会 生涯学習部
「あしたのために」クイズ係 宛

正解者の中から30名に図書カード1,000円分,20名に青少年科学センター入場券1枚を進呈。

●青少年科学センター入場券の当選者発表は,発送をもって替えさせていただきます。

●第45回クロスワードパズルの当選発表は次回に掲載

締め切り日 3月16日(金)当日消印有効

●「あしたのために」に対するご意見・ご感想もお待ちしております。

**第172号の解答**

| A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|
| セ | ン | マ | イ | ツ | ケ |

■図書カード 第172号当選者のお名前

麻田 尚美　田中 順子
坂谷 美咲　重田 祥子
大倉 昭子　長瀬英里奈
太田 圭祐　西川眞由美
梶原 孝幸　西村三友紀
奥野 紳　野田 優緒
加藤 史子　長谷川奈保
川上 華奈　長谷川ひと子
川原林律子　林 ひろみ
神田真里奈　平井千賀子
北井 健太　前田 春香
坂尾あさこ　松葉 佳奈
高井 萌　麦田 徳貴
高見美千子　山田真由美
瀧本 圭子　和田 鈴子
(敬称略)

※638人の皆さん,ご応募大変ありがとうございました。





みんなで創って、みんなで実践

# 「子どもを共に育む京都市民憲章」制定!

子どもたちを健やかに育むため、大人として何をすべきか?

子どもたちの今と未来のため、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範となる「市民憲章」が、去る2月5日、制定されました。

この取組は、「人づくり21世紀委員会」が子どものいのちを脅かす緊急課題を取り上げ、幅広い議論を重ねてきたことを契機に教育、福祉、青少年団体等の代表者と学識経験者による「市民憲章懇話会」における、市内4ヵ所で開催された「意見交流会」、懇話会委員によるパネルディスカッション、さらには196名もの多くの方々から寄せられたパブリックコメントでの市民の声を踏まえての熱い議論を経て、市民憲章としてまとめあげられました。

「憲章」は、前文で子どもを健やかに育むための基本的な考え方を示すとともに、大人として、家庭において、地域において、社会全体として、子どもたちのために取り組むべき6項目の行動理念にまとめられています。

懇話会委員らによる憲章制定披露(2月5日)

## ●市民ぐるみで「憲章」の実践を!

今後、「憲章」が「絵に描いた餅」にならないよう、市民や団体によって実践されることが大切です。「憲章」の実践を通して、すべての子どもを健やかに育むまち・京都を実現していきます。

## ●「憲章」を考える集い開催!

この制定を記念し、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、行動の輪を広げるため、2月24日(土)に「子どもを共に育む「市民憲章」制定記念の集い」が開催されます(1面参照)。「憲章」の実践に向けた取組を市民ぐるみで進めるため、多くの方々にご参加いただきたいと考えています。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

## ●制定の経緯

京都のまちは,地蔵盆や各地域の祭り,伝統行事に象徴されるように,子どもを大切にする文化を誇りとし,また,全国に先駆けて小学校を創設し,地域住民が運営に参画するなど,地域社会を基盤にした子育てと人づくりを担う自治の精神に満ちた輝かしい伝統を有しています。

そうした精神と社会の在り様は,子どもに社会の一員として愛される喜びと愛することの大切さを教え,共に生きるうえでの規律,支え合い,育ち合いの姿勢を自然と学ばせ,身につけさせる役割を担ってきました。

しかし,今,現代社会において,急速な情報化に加えて,物質的な豊かさや利便性があまりにも優先され,家庭での親子,更に兄弟姉妹や祖父母,地域での人と人とのふれあいやつながりといった,子どもの健やかな育ちに大切な力が失われつつあります。

さらに,子どもの命が粗末に扱われたり,子ども自身が自尊感情を持てず,命を軽視してしまう現実を前に,改めて京都のまちが培ってきた次世代育成の精神と地域社会の力に依拠しつつ,子どもを健やかに育むため,市民の心意気を行動で示すことが緊急の課題となっています。

そうした状況のもと,「人づくり21世紀委員会からの提言」が提出されるなど,子どもの命と健やかな成長を最優先させるため,今,大人として何をなすべきかを共に考え行動する市民の輪が広がってきたことを受け,児童虐待等の様々な子どもの問題に取り組んできた京都子どもネットワーク連絡会議とも連携し,親として市民として,さらには企業としての行動の在り方を具体化する「子どもを共に育む京都市民憲章」を制定する運びとなったものです。

## ●経過と予定

| | | |
|---|---|---|
| 平成16年 | 6月～ | 人づくり21世紀委員会において,子どものいのちに関わる緊急課題を取り上げ,17年度に実施した4回の連続講座は延べ965名が参加。うち575名が講座を通して得られたことを「寄せ書き」として提出。 |
| 平成18年 | 2月 | 市民からの「寄せ書き」をもとにまとめた「人づくり21世紀委員会からの提言(中間まとめ)」を桝本市長に提出 |
| | 4月 | 「子どものための市民憲章制定推進プロジェクトチーム」設置 |
| | 6月 | 「人づくり21世紀委員会からの提言」提出 |
| | 7月 | 「京都市子どものための市民憲章懇話会」設置 |
| 平成19年 | 11月 | 憲章素案発表,パブリックコメント実施,意見交流会・シンポジウム(約630名参加)開催 |
| | 2月 5日 | 「子どもを共に育む京都市民憲章」制定 |
| | 2月24日 | 子どもを共に育む「市民憲章」制定記念の集い・第10回人づくりフォーラム |

子どもたちの未来のため活動を続ける「地生連」

## 地域の子どもを守り育てて20年

子どもの問題行動を未然に防ぎ、健やかに育むことは、すべての大人の願いです。

この願いを実現するため、昭和58年に中学校区ごとに学校・PTA・地域の諸団体が集まり、「地域生徒指導連絡協議会」(地生連)が発足しました。以来、セックスコミニゼロ冊運動やサバイバルナイフ・有害玩具対策、地域のたまり場マップ作成などで成果をあげるとともに、地道なパトロール活動や研修会の開催など、地域に根差した様々な活動を行っています。

また、子どもたちの安心・安全に向けた取組は、地域の幅広い団体や住民のネットワークに支えられ、日常的な「見守り活動」として大きな広がりを見せています。

地域ぐるみの活動が子どもたちを守る

## 子どもたちの輝く未来のために

「地生連」も参画する「人づくり21世紀委員会」の「提言」を受け、この度制定された「子どもを共に育む京都市民憲章」。憲章を実効ある行動に移していくためにも、学校だけ、一つの団体だけでは進みにくい活動に、地域ぐるみで多くの団体が連携して取り組む「地生連」の役割は、ますます重要になっています。



特色 スミ 2°

裏